

2022年 11月 13日 《聖餐式》

主 日 礼 拜

司 会 ②白川 達男兄

奏 樂

②松岡 清枝姉

祈 禱

賛 美 聖歌656番 ～十字架の叫び～

使徒信条

聖書朗読 エペソ人への手紙2章1～10節

特別賛美 オクサーナ・ステパニユックさん

メッセージ 「救いの原点に立ち戻る」

石井 潤 牧師

聖餐式 賛美「主イエスの十字架の血で」

献 金 聖歌229番 ～アメイジング・グレイス～

祝 禱

お知らせ 〔司会者〕

賛美「生ける限り」

☆礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします!☆
《今週のお知らせ》

★本日も礼拝の恵みを感謝致します。午後1時から執事会を行います。

☆今週の祈り会：○早天祈祷会：明朝6時～。◎木曜祈祷会：①10時半～、
ボーマン・ルリ子先生。②夜7時半（大和祈祷会）○準備祈祷会：土曜夜8時～。

★今週木曜午後２時～、石井兄姉宅にて家庭集会が行われます。

☆来週の日曜礼拝は「収穫感謝礼拝」です。〈司会：白川兄／祈り：石井兄〉
礼拝後は、大掃除を行います。（翌週２７日からアドベントに入ります。）

☆一年に一回聖書を完読できる！ *Bible Reading Plan* [11/13- /20]

[illegible]

「救いの原点に立ち戻る」

～主の恵みに感謝する人生～

「あなたがたは恵みにより、信仰を通して救われたのです。それは、あなたがたの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。それは、誰も誇ることがないためです。」

エペソ人への手紙2章8－9節 [協会訳]

アメリカの中間選挙が行われました。アメリカは二大政党のため、政権争いが激しい国でもあります。アメリカ建国時は、キリスト信仰が土台となって国が建てられましたが、今では“Merry Christmas!”と言ってクリスマスをお祝いすることさえできずに、“Happy Holidays!”と言わなければならないような国になっています。国の原点に戻ることをできない状況でもあると言わざるを得ません。

1620年、清教徒102名が信仰の自由を求めて、アメリカ大陸へ向かいました。上陸して一年も経たないうちに半数以上が飢えと病で死んでしまいました。彼らは断食祈禱をして神に切に祈りました。しかし、ある人が提案しました。

「私たちが、困難に遭うたびに断食祈禱をするのは、神様に不平を言っているようなものです。たとえ食料が不足し、病と闘わなければならなかったとしても、私たちには信仰の自由があり、政治的な自由があります。ですから、断食祈禱の代わりに感謝の期間を設けて、神様に感謝の祈りをささげてはどうでしょうか」

この提案を受けて始まったのが収穫感謝祭でした。

また、初代大統領ジョージ・ワシントンが大統領就任時に宣言をしました。

「全知全能なる神様の摂理を信じ、神様の計画に従ってその導きに感謝し、謙遜に神様の守りと恵みを求めることは、国家の義務であります。議会の上下両院連合委員会は私にこのような要求をしました。

『アメリカ国民に、公式に感謝節と祈禱節を制定し、国民が真実に感謝する心で全知全能なる神様の恵みを信じ、この感謝節と祈禱節を守るようにし、国民の安全と幸せのために平和な政府を築きましょう！』

それで私はこのように提案します。はるか昔から私たちを守ってくださった神様の恵みに感謝し、私たちをこれからも守ってくださるよう、礼拝をおささげ致しましょう。そうすれば、神様は私たちを必ず守ってくださいます！」

このようにして、感謝祭(サンクス・ギビング・デイ)が公式に制定されました。

これが、アメリカ合衆国の建国の志でした。神様への感謝を忘れたなら、あの国の未来はなくなるでしょう。私たちクリスチャンの原点も同様です。神様の恵みによって救われた私たち。その恵みとは主イエス様の十字架の救いと復活による永遠の命です。その恵みをしっかりと握り続けるならば、私たちの人生は揺るがないものとなるのです！